

第2回 その2 柏原市公共施設等再編検討委員会 会議録

日 時	令和4年12月16日(金)
場 所	書面開催
出 席 者	○高山新 委員長（大阪教育大学 教育学部 教授） ○辻壽一 副委員長（大阪公立大学 生活科学部 客員教授） ○碓田智子 委員（大阪教育大学 教育学部 教授） ○小林一裕 委員（政策推進部 総合政策監） ○山口伸和 委員（柏原市 財務部長） ○森本貞男 委員（柏原市 都市デザイン部長） ○福島潔 委員（柏原市 教育部長）
事 務 局	○柏原市 総務部 公有財産マネジメント課
第2回その2 次 第	1. 案件 検討委員会（第2回）の際に出た委員からの意見・課題についての回答と方針

委員会の内容

1. 案件	<p>○事務局が第2回検討委員会における委員からの意見・課題についての回答と方針を書面にて通知した。</p> <p>【委員意見】</p> <p>意見1：市民に公表する資料等は、表現方法に留意する。</p> <p>意見2：柏原地区にも小規模な公民館分館のような施設を維持し続けることが必要になってくるのではないかな。</p> <p>意見3：何らかの形で柏原地区に公民館機能を補填するような案が必要。</p> <p>意見4：リビエールホールの大ホールを図書館に転用する案も検討の余地があるのではないかな。</p> <p>意見5：リビエールホールに図書館を移設すると窮屈感が否めないため、別途検討が必要。</p> <p>意見6：サンヒル柏原に図書館スペースを確保することについて、耐荷重の問題を含め費用面からも案を検討すべき。</p> <p>意見7：サンヒル柏原に図書館を追加する案について、実現の可能性を検討すべき。</p> <p>意見8：リビエールホール活用について、単にホール機能と図書館機能を合体させるだけでなく、相乗効果をより高めるような具体的な案の検討について。</p> <p>意見9：一つの施設の中で直営と指定管理の部分が同居するような状況はあまり現実的ではなく、一つの建物を多機能化するのであれば建物全体で同じ管理手法をとるべき。</p>
-------	--

【事務局回答】

回答1：アンケート調査結果やパブコメ資料など市民に公表する資料は、分かりやすい表現となるよう工夫する。

回答2：移転後のフローラルセンターにおいて、旧市民プラザの貸館機能を継続するため、公民館の代替え施設として賄えるものと考えられる。また、この再編整備において集約化される貸館については、公民館を基準とした使用料の統一化、柏原市内全ての貸館の使用状況等を簡易に確認できるシステムの構築等についても検討する。

回答3：(同上)

回答4：リビエール担当課と協議した結果、大ホールは市の事業で必要であること、また、大ホールを無くすことは、指定管理者の応募に大きく影響する恐れがあるため、廃止は不可能と判断した。

回答5：リビエールホールと図書館を同一の指定管理者を導入することで、事務所を一つにし、ゆとりあるスペース確保に向け検討する。さらに設計段階で現在のリビエールホールの設備・部屋等を集約・移転させることで面積増加に向けた検討を行う。この他、リビエールホール・サンヒル柏原(図書コーナー)・国分図書館の各々の蔵書の種類を利用者ニーズにより区分し、リビエールホールの図書館蔵書を減らすことで、スペース確保に向けた検討を行う。

回答6：施設の機能や設備などプランニングの詳細については、今後、設計に反映させることは可能である。

回答7：サンヒル柏原のみに図書館を移転させることは、サンヒル柏原・国分図書館の近隣に2箇所立地することになり、柏原地区に新たな図書館設置の必要性が生じること。また、サンヒル柏原・リビエールホールに図書館を移設することは、図書館が市内で3箇所となり、職員(図書館司書を含む。)の増員となる。担当課と協議の結果、人口規模・財政面で無理があり、別途、サンヒル柏原に図書コーナーや移動図書館の検討を行う。

回答8：リビエールホールの利用者、河川オープン化等との相乗効果のみではなく、今後、関係部署等と検討を重ね、更なる相乗効果を図っていく。

回答9：施設の運営方法については、現在においても指定管理者の導入等に関係部署と協議を行っているが、再編整備計画においてある程度の方向性を示したい。

【結果】

第2回検討委員会における委員からの意見・課題についての回答と方針について承認を得た。

以上